



2021年 第2回 交流会 レビー小体型認知症サポートネットワーク京都 活動報告書

日時：2021年4月24日（土） 13:30～16:00

内容：医師の講話と相談交流会

参加者：6名

会場で対面交流会の開催予定でしたが、まん延防止等重点措置が発出された事を受けて、リモート開催に変更となり、リモート参加が難しい方には参加戴くことができずご迷惑をおかけしました。今回から交流会は、コロナウイルス感染拡大防止とリモート参加のハードルを少しでも低くする為、ご本人・家族介護者のみの参加とし、環境が整っておられない方にはサポートステーションを設けリモート参加して戴きやすいようにしました。「どんな感じなのか不安だったが、思っていたより大丈夫だった、参加して良かった」と感想をいただきました。相談交流会では、専門医・家族の会からのサポート・運営スタッフ（専門職）が同席し、1グループ6名で2つに分かれて行いました。

下記は、開催概要とアンケートの結果です。

■講話：テーマ「認知症 おさらい編」（全体での講話）

講師：協力医：杉本医院 院長 杉本英造先生

・認知症は、アルツハイマー型、レビー小体型、前頭側頭葉型、脳血管型認知症に大きく分類されるが、それぞれ独立した疾患ではなく、当初アルツハイマー型と診断されていても、レビー小体型や前頭側頭型に移行・混合したり、レビー小体型から前頭側頭型へ移行・混合したりする事例があります。いまもう一度、それぞれの認知症を復習し、症状の変化に早く気付くことは、医療はもちろん介護においてもとても大切であることから、「認知症：おさらい編」を通して、レビー小体型認知症の理解向上につなげてほしいという内容でした。

■参加者の声

【よかった点】

- ・非常にわかりやすい説明をうけたこと、個人個人の悩みに丁寧にお答えいただいたこと、共通の悩みを抱えている方々の存在を知ったことなど、有意義な時間を過ごさせていただき、気持ち的にもずいぶん楽になった。
- ・気軽に参加することができる。遠隔地からでも参加可能。・聞きたいことが聞けて良かった。
- ・介護度の高い母を介護しているので、家をなかなか離れることができず、またコロナ渦ではオンラインによる交流会はとてもありがたかった。

【よくなかった点】

- ・皆さんの雰囲気を感じながら話ができない。自分が話していると、聞こえているか不安になってくる(←ズームに不馴れなため)。
- ・リモートでの参加は初めてだったのでとても緊張した。講話の後の交流会では時間の配分がよくわからなかったので、他の方に迷惑をかけたのではないかと心配になった。また、対面ではないためか気楽に発言することができなかつたように思う。

【感想】

- ・交流会に参加すると、気持ちが一度落ち着くように感じます。一進一退の状態ですが、母に合った介護の方法を探していきたいと思う。
- ・母親に生じている状況に戸惑い、時に人格を疑うような言動に腹を立てるような日々を過ごしてきたが、何とか前向きに今の状況を受け止めていこうという気持ちになった。またこのような機会に参加できればと思っている。
- ・医師や、介護者の皆様に直接何気ない日常や疑問を聞いてもらえ、返事がもらえるというのはとてもありがたいことなのだと感じました。答えがでないかもしれないけれど、それぞれにとっての幸せという、普遍的なテーマをこの会を通じて探していくことができれば、と思った。
- ・交流会では人数が少ない事もあると思うがもっと在宅で苦労された話や工夫された事、実際的な話が聞きたかった。